

ジュラシック・トーク

ブルックナーの交響曲第4番の3つの稿について

■この曲の成り立ち

ブルックナーが交響曲第4番を完成させたのは1874年の11月のことでした。この楽譜が1874年の「第1稿」と呼ばれるものです。しかし、彼はこの出来に満足出来ず、改訂を施し始めます。もちろん、この時点での演奏や出版は行われてはいません。そして、1878年9月までには1、2、4楽章を改訂し、11月には第3楽章を全く新しく作曲し直しました。さらに第4楽章だけは何度も大幅な手直しを行って、1880年6月に改訂を終わらせます。これが1878/80年の「第2稿」で、ブルックナーはこれを決定稿として発表したいと考えていました。

ところが、これはハンス・リヒターの指揮による初演（1881年）こそ成功したものの、弟子のフェリックス・モットルが指揮をした再演は大変な不評に終わってしまったのです。

そこでブルックナーは、このままでは出版できないと考え、弟子のフェルディナント・レーヴェの手も借りて、第3楽章と第4楽章の一部をカットし、さらに全体のオーケストレーションもワーグナー風の響きに改変したものを1888年に完成させ、初演も行いました。そして、翌年9月にウィーンのアルベルト・J・グートマン社から出版されました。これが「第3稿」です。それから半世紀近く、この曲はこの楽譜によって演奏されることになりました。ですから、クナッパーツブッシュやフルトヴェングラーたちが残した歴史的録音には、この楽譜が使われています。しかし、これに対しては、ブルックナー本人による改訂ではなく、弟子たちによって改竄されたものだ、という評価が、長い間付きまとうことになりました。

1929年にはウィーンに国際ブルックナー協会が設立され、ロベルト・ハースの手によって次々と原典版が出版されるようになります。これが第1次批判全集版、いわゆるハース版と呼ばれるものです。交響曲第4番のハース版は1936年に刊行されましたが、これはもちろん第2稿が元になっています。

さらに、戦後には、ハースのあとを継いだ形のレオポルド・ノヴァーク（ノーヴァク）により、新しい研究結果を取り入れた第2次批判全集版、いわゆるノヴァーク（ノーヴァク）版が刊行され、交響曲第4番も1953年に出版されました。ノヴァーク版も、やはり、元になったのは1878/80年の第2稿です。

ノヴァークの仕事は、一通り全交響曲の校訂を終えたあと、さらに異稿にもおよびました。その結果1975年には1874年の第1稿が、作られてから1世紀もたってやっと出版され、同じ年に初演されて、初めて聴衆の耳に届きます。さらに、ノヴァークの没後、ベンジャミン・コーストヴェットによって、第3稿は改竄ではなく、しっかりブルックナーの意思が反映されているという主張がなされ、コーストヴェットによって校訂された楽譜が、やはり国際ブルックナー協会によって2004年に出版されました（↓）。コーストヴェットは、2021年には第1稿の新しい校訂版も出版しています。

現在、この曲が演奏されるときには、第2稿が使われることが圧倒的に多くなっていますが、第1稿や第3稿によるコンサートや録音も、最近は増えています。今回ニューフィルが末廣さんの指揮によって演奏するのは第2稿のハース版ですが、第1楽章の47小節目から50小節目（=409~412小節目）では、ファースト・ヴァイオリンのパートが末廣さんによってこの第3稿の形の1オクターブ高い音に変更されています。



今年の2月には、紫苑交響楽団という大阪の高槻市を拠点に活躍しているアマチュア・オーケストラが、このコースヴェット版の第3稿を演奏していました。

紫苑交響楽団
第38回 定期演奏会

シューベルト
交響曲第6番 ハ長調 D.589

ブルックナー
交響曲第4番 変ホ長調「ロマンティック」WAB.104
(1888年稿 コーストヴェット版)

客演指揮 新通 英洋

2022年
2月27日(日) 14:00 開演 (13:15 開場)

門真市民文化会館 **ルニエールホール** 大ホール

入場料 ¥1,000 (自由席)

【会場へのアクセス】
○京阪電車「古川橋駅」下車 徒歩5分
○近畿鉄道「大槻駅」下車 徒歩5分
○近畿バス「大槻駅」下車 徒歩5分

【演奏のサポート】
○演奏のサポートは、演奏者の演奏活動の発展を目的として行われます。
○演奏のサポートは、演奏者の演奏活動の発展を目的として行われます。
○演奏のサポートは、演奏者の演奏活動の発展を目的として行われます。

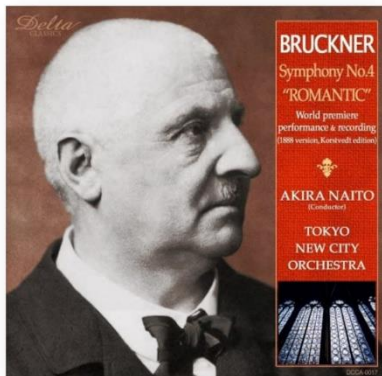
【お問い合わせ】
090-1954-9773 (携帯)
https://shion-ko.amebaownd.com/

【お問い合わせ】
06-6908-5300
TEL: 06-6908-5300

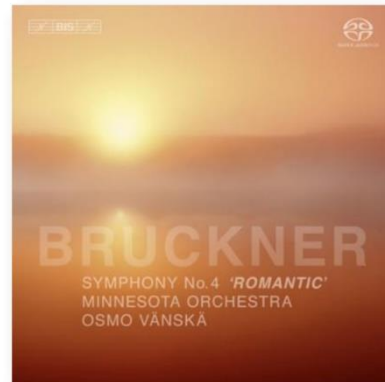
新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、次の事項についてご理解・ご協力をお願いいたします。
○本公演は、観客の安全を第一とし、必要に応じて公演を中止または変更させていただきます。
○本公演は、観客の安全を第一とし、必要に応じて公演を中止または変更させていただきます。
○本公演は、観客の安全を第一とし、必要に応じて公演を中止または変更させていただきます。

■第3稿コーストヴェット版の録音・録画

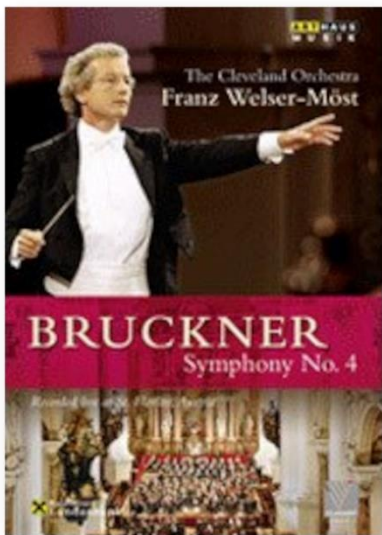
この楽譜（コーストヴェット版）によって最初に録音を行ったのは、日本人の内藤彰さんでした。その後、オスモ・ヴァンスカ盤、フランツ・ウェルザー＝メストの映像が続き、最近ヤクブ・フルシャ盤とレミ・バロー盤が加わっています。さらに、2024年までにブルックナーの交響曲のすべての稿による録音を目指しているマルクス・ポシュナーによっても近々録音される予定です。



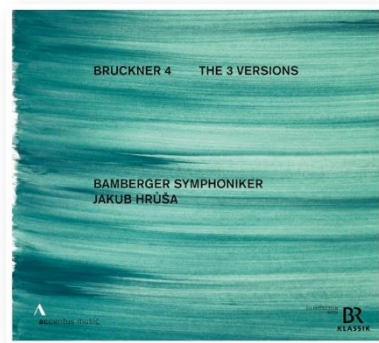
内藤彰指揮
東京ニューシティ管弦楽団
2005年7月録音
DELTA/DCCA-0017



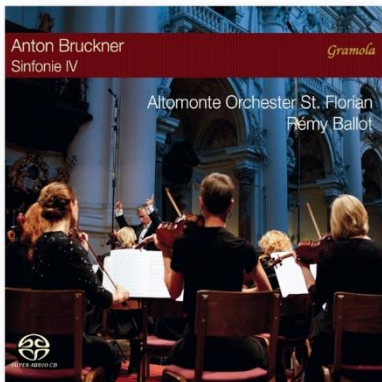
オスモ・ヴァンスカ指揮
ミネソタ管弦楽団
2009年1月録音
BIS/SACD-1746 (SACD)



フランツ・ウェルザー＝メスト指揮
クレーヴランド管弦楽団
2012年9月録音
ARTHAUS/108 078(BD)



ヤクブ・フルシャ指揮
バンベルク交響楽団
2020年11月録音
ACCENTUS/ACC 30533



レミ・バロー指揮
ザンクト・フローリアン・
アルトモンテ管弦楽団
2021年8月録音
GRAMOLA/99261 (SACD)



マルクス・ポシュナー指揮
ウィーン放送交響楽団
録音日未定
CAPRICCIO/品番未定